

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/07/25

米債務上限引き上げ交渉に注目

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➔	重要経済イベントは多いが… 予想レンジ: 77.00 ~ 80.50 円	2 - 3
カナダ/円	➔	様子見ムードが強いものの 予想レンジ: 81.00 ~ 85.30 円	4 - 5
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 7/18～22の主な推移

※4時間足



7/18 Monday	東京市場が祝日で薄商いの中、NYダウ先物が軟調でクロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)が値を下げると、ドル/円も連れて下落(①)。正午頃に中国国務院発展研究センターのDING氏が「米国はデフォルトを避けられるだろう」と発言し、一時79.18円まで急騰するも、追隨してドル買いに動く向きもなく、ドル/円はすぐに上げ幅を消した。
7/19 Tuesday	21時30分に発表された米6月住宅着工件数は62.9万件(予想:57.5万件)、6月建設許可件数は62.4万件(同:59.5万件)と予想より大幅に良好な結果だった。これを受け、ドル/円は上昇したが、79円台では上値が抑えられ、反落。NYダウ平均が寄り付きから大幅に上昇し、対オセアニア通貨などでドル安が進むと、ドル/円でもドル売りが優勢となり、78.81円まで値を下げた。しかし、27時前にオバマ米大統領が会見にて「債務についての協議で一定の進展があり、幾分(共和党との)意見の溝が狭まった」「超党派の上院議員グループが提案している財政赤字削減策は、私がこれまで考えてきた債務削減策とおおむね一致している」などとの見解を示すと、米国の債務上限引き上げ交渉進展を好感し、ドル/円は79.28円まで上昇した(②)。
7/20 Wednesday	事業法人の決済が集中しやすいゴトー(5・10)日の仲値公示に向けたドル需要などへの思惑から、ドル/円は79.31円まで上昇した(③)。しかし、上伸力に乏しく、すぐに上げ幅を縮小。午後に入ると本邦輸出企業と見られるドル売り・円買いが入ったことや、ギリシャ支援策合意への期待感から対ユーロでドル売りが強まったことなどを背景にドル/円は78.70円まで値を下げた。
7/21 Thursday	14時過ぎにまとまった規模の円売り・ドル買いがあり、ドル/円は79.03円まで急騰した。しかし、追隨する動きもなく、すぐに上げ幅を縮小。21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が41.8万件と市場予想(41.0万件)より弱い結果になったことでドル/円は軟化した。さらに、ユーロ圏首脳会議の声明草案として「欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の融資期間は7年半から少なくとも15年に延長」「ギリシャやポルトガルに適用されている金利は4.5%程度から3.5%程度に引き下げられる」などの内容が報じられると、ユーロ高・ドル安が大幅に進行。これを受けてドル/円でもドル売り優勢となり、78.33円まで下げた。その後、米紙ニューヨーク・タイムズが「オバマ米大統領と米共和党のペイナー下院議長が主要な予算折衝で合意に近い」と報じたことが広がるとドル/円は反発したが、その後、米ホワイトハウスが「予算折衝での合意はない」「オバマ米大統領は依然、議会と協議を続けている」と発表すると、再びドル/円は値を下げた(④)。
7/22 Friday	前日からのドル売りの流れを引き継ぎ、早朝に78.20円まで下落(⑤)。その後、すぐに反発したが78円台後半では上値が重く推移。夕方に入り、クロス円が軟化すると、ドル/円も78.28円まで値を下げた。その後も、米建機大手キャタピラーの決算が事前予想を下回ったことやノルウェーで爆破事件が起こり、クロス円が軟調だったことなどを背景にドル/円の上値は抑えられた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

ドル/円はジリ安基調が続いており、今週も下値を模索する展開となりそうだ。

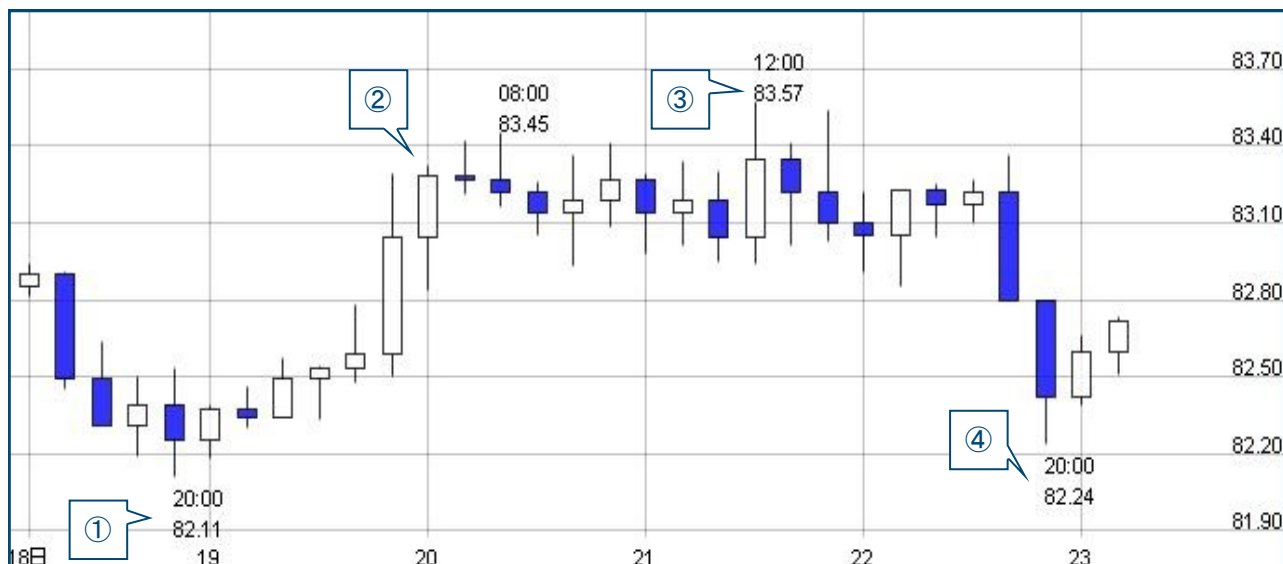
目下のところ市場の関心は米連邦債務上限引き上げ協議に関する報道に集中している。協議難航の度合いは強く、8月2日までに債務上限を引き上げなければ一部米国債がデフォルトする可能性があり、こうした債務不安が強まる中でドル売りが強まっている。今週の米国では、5月S&P/ケース・シラー住宅価格指数や7月消費者信頼感指数、7月リッチモンド連銀製造業指数(26日)、6月耐久財受注や米地区連銀経済報告(27日)、週次の新規失業保険申請件数や6月中古住宅販売件数(28日)、米第2四半期国内総生産(GDP)・速報値や7月シカゴ購買部協会景気指数(29日)など、多くの重要指標やイベントが予定されている他、米国債入札(26日:2年債、27日:5年債、28日:7年債)、米主要企業決算などもあり、手掛かり材料は非常に多い。しかし、債務上限引き上げ協議の決着が見えるまでは市場の関心はこちらに集中し、上述の手掛かり材料の影響はかなり限定されそうだ。

ただし、米連邦債務上限引き上げについて合意がなされた、という報道があれば、これまで大きく売られてきたドルは急激かつ大幅に買い戻されるとみられる。週を通しての値幅は大きめに想定しておきたい(ジェルベズ)

(予想レンジ:77.00~80.50円)

CAD/JPY

カナダ/円 7/18~22の主な推移



7/18 Monday	欧州の債務・信用不安に加え、米国連邦債務上限の引き上げ協議が難航している事を背景に、NYダウ平均株価が寄り付きから大幅に下落すると、リスク回避の動きが強まりカナダ/円は82.11円の安値を付けた。(①)また、原油価格の下落もカナダ/円の重しとなった。
7/19 Tuesday	カナダ中銀(BOC)は政策金利を現行の1.00%に据え置いた。しかし、BOCの声明では「インフレ目標である2%の達成に向け、現在実施されている金融刺激策の一部は撤回される」として、前回声明の「現在の金融刺激策は『いずれ』撤回されるだろう」から、より利上げに前向きな表現を使った。BOCが早期利上げを示唆したとしてカナダドル買いが強まると、カナダ/円は83円台を回復。その後、米オバマ大統領が「債務上限引き上げ協議にある程度の進展があった」と述べた事が伝わるとNYダウ平均株価が上値を伸ばし、つれてカナダ/円は83.29円まで上昇した。(②)
7/21 Thursday	日経平均株価が持ち直した事や、ドル/円が短時間のうちに30銭以上急騰した事を受けて、カナダ/円は83.57円の高値を付けた。(③)その後、83円付近まで小緩む場面もあったが、ユーロ圏首脳会議の声明草案で、ギリシャ向け追加支援の合意や欧州金融安定ファンシリティ(EFSF)の機能拡充などが発表された事を好感してNYダウ平均株価が大幅に上昇すると、カナダ/円は85.50円台を回復した。ただし、その後は全般的なドル売りを背景にドル/円が78.30円まで下落すると、これにつれてカナダ/円も82.85円まで弱含んだ。
7/22 Friday	加6月消費者物価指数が前月比-0.7%と、予想(-0.2%)を大きく下回った事を受けて、カナダドル売りが優勢となった。さらにその後発表された米キャピラー社の第2四半期決算が予想を下回ると、時間外のNYダウ先物が急落。ノルウェーの首都オスロで大規模爆発が起きた事もリスク回避の動きを助長し、カナダ/円は82.24円まで下落した(④)。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は82.11円～83.57円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.1%の小幅下落(カナダドル安・円高)となった。この間、日経平均株価は約1.6%の上昇、NYダウ平均株価も約1.6%の上昇、原油価格(WTI期近物)は約2.6%の上昇となっており、カナダドルは対ドルでは強含みで推移したものの、米債務上限問題などを受けたドル/円の軟調推移を背景に、対円では小幅安となった。

実際には、先週の米国株の上昇が示すように、米国の債務上限が引き上げられず、米国債がデフォルトに陥る可能性を高く見ている市場参加者は殆どいないと言えるだろう。とは言え、万が一米国債がデフォルトとなった際の影響の大きさを考えると、この問題が一定の決着を見るまでは、カナダ/円相場に手を出しづらいムードも残る。一方で、8月2日の米債務上限引き上げの期限まで残り1週間余りとなっており、急転直下の合意となれば、カナダ/円が急上昇する可能性もある。ホワイトハウスと共和党の協議の行方を睨みつつ、今週のカナダ/円は神経質な展開が続きそうだ。(神田)

(予想レンジ:81.00～85.30円)

経済指標カレンダー (7/25~28)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/25 (月)	10:30		(豪) 第2四半期生産者物価指数 [前年比]	+2.9%	—
7/26 (火)	07:45	○	(NZ) 6月貿易収支	+6.05億NZD	+4.00億NZD
	15:00		(独) 8月GFK消費者信頼感調査	5.7	5.6
	17:30	◎	(英) 第2四半期GDP・速報値 [前期比]	+0.5%	+0.1%
		◎	(英) 第2四半期GDP・速報値 [前年比]	+1.6%	+0.7%
	22:00		(米) 5月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.96%	-4.65%
	23:00	○	(米) 6月新築住宅販売件数	31.9万件	32.0万件
			(米) 6月新築住宅販売件数 [前月比]	-2.1%	+0.3%
	23:00	○	(米) 7月消費者信頼感指数	58.5	57.9
	23:00	○	(米) 7月リッチモンド連銀製造業指数	3	5
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
7/27 (水)	10:30	◎	(豪) 第2四半期消費者物価 [前期比]	+1.6%	+0.7%
		◎	(豪) 第2四半期消費者物価 [前年比]	+3.3%	+3.4%
	17:00		(ユーロ圏) 6月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.4%	+2.4%
	18:30		(スイス) 7月KOF先行指数	2.23	2.10
	21:30	○	(米) 6月耐久財受注 [前月比]	+2.1%	+0.3%
		○	(米) 6月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	+0.7%	+0.5%
	27:00	○	(米) 米地区連銀経済報告(ページブック)	—	—
	未定	◎	(独) 7月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.1%	+0.3%
		◎	(独) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.3%	+2.3%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
7/28 (木)	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレート	2.50%	—
	16:55	○	(独) 7月失業者数	7.0%	7.0%
	16:55	○	(独) 7月失業率	-0.8万人	-1.3万人
	18:00		(ユーロ圏) 7月消費者信頼感・確報 [前年比]	-11.4	-11.4
	18:30		(南ア) 6月生産者物価指数 [前年比]	+6.9%	+7.0%
	21:30	◎	(米) 7/22までの週の新規失業保険申請件数	41.8万件	--
	23:00	○	(米) 6月中古住宅販売成約 [前月比]	+8.2%	-2.0%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

経済指標カレンダー (7/29)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
7/29	07:45		(NZ) 6月住宅建設許可 [前月比]	+2.2%	+3.0%
(金)	08:01		(英) 7月GFK消費者信頼感調査	-25	-24
	08:30	○	(日) 6月全国消費者物価指数 [前年比]	+0.3%	+0.2%
		○	(日) 6月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	+0.6%	+0.5%
	08:30		(日) 6月失業率	4.5%	4.6%
	08:50		(日) 6月鉱工業生産・速報 [前月比]	+6.2%	+4.4%
			(日) 6月鉱工業生産・速報 [前年比]	-5.5%	-1.3%
	17:30		(英) 6月消費者信用残高	+2億GBP	+3億GBP
	17:30		(英) 6月マネーサプライM4 [前年比]	-0.2%	—
	18:00	◎	(ユーロ圏) 7月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	19:00	○	(日) 外国為替平衡操作の実施状況 (6月29日～) [月ベース]	0円	—
	21:00		(南ア) 6月貿易収支	-10億ZAR	-10億ZAR
	21:30	○	(加) 5月GDP [前月比]	±0.0%	+0.1%
	21:30	◎	(米) 第2四半期GDP・速報値 [前期比年率]	+1.9%	+1.7%
	21:30		(加) 6月鉱工業製品価格 [前月比]	-0.2%	—
	22:45	◎	(米) 7月シカゴ購買部協会景気指数	61.1	60.0
	22:55	○	(米) 7月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	63.8	64.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com